



8:00 大阪富国生命ビル前から出発
初めての一人旅、ママ達は心配そう。子ども達は元気いっぱい

活動場所 三重県伊賀市丸柱 里山かがく学院



小林先生の挨拶で始まり、次いで、高校生大学生ボランティアの防災ガイダンス



大介師範忍による忍術と防災のプログラムは、九字印から始まりました。



忍具にふれたり、忍者の話を聞いたりしました。

庭でのプログラム***マッチを使った火起こしとサバイバルシートに入って、笛で助けを呼ぶ体験をしました。



マッチのつけ方を説明



毎日新聞社の記者さんのインタビューに答える子ども達ちょっと、緊張したね。

炊き出し体験 **防災おにぎりづくり**

食器をなるべく汚さずに、清潔に食事をする方法を体験しました。



忍者歩きの指導 : 災害時、危険を避ける体の動きを習得



さあ！素早く、身をかがめながら、逃げろ！



体の重心をいろいろに変えて、さまざまな状況に対応した動きを指導。



子ども達は、楽しく、様々な体術を学んでいきます。



リアル災害脱出ゲームの始まりだ！
九字印で心を鎮め、パニックになるのを防ぎ、忍術で障害物を
上手に避けて、10枚のカードを探し出そう



すべての課程を修了したので、修了証をもらえました。



スタッフ左後ろから
峯平・西村・白須由・小林・西浦・讃岐・辻本
三井・帳・白須愛・松田・溝口



伊賀を後に、梅田へ向かう。



ママやパパのお迎えに、えっへん！ただいま。
忍者あるき教えてもらったよ！また行きたいな。

古民家で「忍者キャンプ」

小学生ら 災害時のサバイバル術学ぶ



旧辻本邸の庭で銀マットにくるまって身をふせる子どもたち

伊賀

伊賀市丸柱の古民家を再生し、28日、T.H.E.忍者キャンプ、リアル災害脱出ゲームがあった。

手ぬぐい使った水分補給法など



旧辻本邸の庭でマッチをする子どもたち。左が小林昭雄理事長、右が辻本あかねさん。いずれも伊賀市丸柱で

た。小学生らが広々とした古民家でサバイバルにチャレンジした。旧辻本邸は丸柱地区の幹線道路沿いにある。学校で広く使われた帝国書院の地図帳の著作者の一人で東京学芸大学名誉教授、辻本芳郎さん（1914～91年）らが育った旧家。芳郎さんの兄郁郎さん、その長男の惣さんと引き継がれ、空き家になった。今は惣さんの長女の辻本（27）あかねさん（55）兵庫



旧辻本邸で大介先生（右）の話を聴く子どもたち

興宝塚市に所有し、2020年に伊賀市の空き家再生制度を利用するなどして、荒れていた古民家の母屋や離れ、畜室、庭を使えるよう整備した。辻本さんは大阪市の一般社団法人テラフロジェクト（小林昭雄理事長）の子ども体験教室で、顕微鏡などを使って実験する体験プログラムを担当していた。新型コロナウイルス感染症の影響で郊外に教室の場を広げ、リフォームを終え「里山かがく学院」と名付けた旧辻本邸を体験の舞台にした。テラフロジェクトは22年から旧辻本邸を利用している。この日は大阪府の小学生24人がバスで訪れた。講師は忍道塾館の大介先生（46）大阪府能勢町が務めた。午前中は室内では手ぬぐいを使った水分補給法を学び、庭ではマッチを使った火起こしや銀マットにくるまって助け待つ体験をした。大介先生は助けを待つ場所は「安全な場所でないければならぬ」と灯籠などに近い場所は避けるようアドバイスした。大阪市の3年生の男児（8）は「広い家は面白い」と話し、1年生の男児（6）は「広くてびっくりした」と笑顔だった。2021年からは地元住民らと「里山を繋ぐ会」を設立して、旧辻本邸を拠点に山野草の保護やマツタケ山の再生などに取り組んでいる。辻本さんは「これからは次世代を担う子どもたちがいろいろな体験ができるよう、丸柱の里山環境を守るなど他でできない活動をしていきたい」と話した。（大西康裕）

あすのごよみ 5月30日(火)

志望校選びのポータルサイト 中学受験.jp